

## 情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

### 放送業務委員会（第7回）議事概要（案）

#### 1. 日時

平成24年10月2日（火）14:00～16:00

#### 2. 場所

総務省8階 第4特別会議室

#### 3. 出席者

（敬称略、五十音順）

##### 3.1. 主査

伊東主査（東京理科大学）

##### 3.2. 主査代理

都竹主査代理（名城大学）

##### 3.3. 専門委員

大寺専門委員（民放連）、岡田専門委員（NTT 未来ねっと研）、川口専門委員（テレビ朝日）、岸田専門委員（フジテレビ）、豊中専門委員（TBS テレビ）、西田専門委員（NHK 技研）、松井専門委員（ARIB）、三木専門委員（三菱電機）、山内専門委員（NHK 技研）

##### 3.4. SG6 出席者等

井上氏（フジテレビ）、浦野氏（日本テレビ）、久代氏（NHK）、菅原氏（NHK 技研）、武智氏（NHK 技研）、古田氏（NHK 技研）

##### 3.5. 事務局

総務省 情報流通行政局 放送技術課

野崎 課長、宮澤 課長補佐、林 国際係長、山内 国際係員

#### 4. 配付資料

資料 放-7-1 : 放送業務委員会（第6回）議事概要（案）

資料 放-7-2 : JTG-4-5-6-7 会合報告

資料 放-7-3 : 2012年秋期 ITU-R SG6 関係ブロック会合の概要

資料 放-7-4 : 放送業務 WG における検討結果（案）

- 資料 放-7-5 : ITU-R SG6 関係ブロック会合への対処方針（案）  
資料 放-7-6 : 今後の検討スケジュール（案）  
参考資料 1 : 2012 年 SG6 春会合後に策定された勧告等  
参考資料 2 : 放送業務委員会構成員名簿議事概要

## 5. 議事概要

### 5.1. 開会

交代した専門委員を事務局より紹介：岸田専門委員（フジテレビ）、浜田専門委員（NHK）（今回欠席）。  
また、事務局の交代についても紹介：野崎（総務省 放送技術課長）。

### 5.2. 配付資料の確認

事務局から配付資料の確認を行った。

### 5.3. 前回議事概要の確認

資料 放-7-1「放送業務委員会（第 6 回）議事概要（案）」について、修正意見等は別途事務局へ連絡することになった。

### 5.4. JTG 4-5-6-7 会合報告

資料 放-7-2「JTG-4-5-6-7 会合報告」に基づき説明がなされた。質疑等は以下のとおり。

○ 次回会合以降に IMT の候補周波数を提案とあるが、日本に関係のない議題 1.2 では周波数帯が提示されている一方で、議題 1.1 ではどのような周波数が候補として考えられているのか。マイクロ波も関係してくるのか。

→ 議題 1.1 の中では候補周波数帯についてはまだ言及はない。まずは各国が IMT に明け渡すことが出来る候補周波数を入力するところから検討が始まる。

○ 候補周波数帯の絞り込みを行うところから検討が行なわれるのか。

→ そのとおり。仮に放送業務及び放送事業用の周波数帯が候補となった場合には、SG6 は放送業務を保護するための基準となる勧告やレポートのリストを提出する必要がある。

○ IMT と放送の共用ということは D/U の検討か。I/N も関わってくるのか。

→ D/U と併せて I/N を含む勧告も提出することになると思う。SG6 からは勧告 BT.1895 についても入力する予定である。議題 1.2 については今年 12 月が締切りなので、次回 10 月の会合が最後のチャンスである。

→（事務局）既に APT では IMT の候補周波数帯を特定すべく検討が開始されている。APT から各国に対して、各周波数帯の使用状況に関して質問が出されており、放送事業用途に関係するものとしては 860MHz 帯の FPU、3.4GHz 帯の STL が含まれている。

○ 860MHz については国内では既に移動通信用に移行対象となっていたと思うが。

→（事務局）そのとおり。

○ 3.4GHz 帯についてもずいぶん前に議論をしたような記憶がある。なかなか放送側から見れば厳しい状況のようだ。

## 5.5. ITU-R SG6 関係ブロック会合の概要

資料 放-7-3「2012 年秋期 ITU-R SG6 関係ブロック会合の概要」に基づき、事務局から説明がなされた。質疑等は特になし。

## 5.6. ITU-R SG6 関係ブロック外国寄与文書への対処について

資料 放-7-4「放送業務 WG における検討結果（案）」に基づき説明がなされた。質疑等は以下の通り。

- 標準受信機についての話があったが、これができることにより基準等にどのような影響があるのか。
- 混信保護比や最小電界強度を決めるにあたって、実験ベースで決めようとするばなんらかの受信機を想定する必要がある。このとき受信性能の異なる受信機を使えば出てくる結果も異なってしまうので、単純化のために標準受信機を決めて、それをもとにプランニングしようという考えである。一方で、性能の悪い受信機を標準にしてしまえばもちろん厳しい基準が出てくることになる。
- 標準受信機を定義することにより混信保護比の決定や回線設計をしやすくするのがねらい。本件については ARIB でも現在検討中である。

## 5.7. ITU-R SG6 関係ブロック日本寄与文書案について

資料 放-7-4「放送業務 WG における検討結果（案）」に基づき説明がなされた。質疑等は以下の通り。

### 5.7.1. 日本寄書 A1：地上デジタルテレビジョン放送の特定スペクトル制限マスクに関する WP1A へのリエゾン文書案

- SG1 勧告と SG6 勧告でマスクが 2 重規定になっているということか。
- 各主管庁はどちらの規定も見なければならず、ふさわしい基準を自国で選ぶことになる。どちらかというとなじみがない、generic なマスクが SG1 の勧告であり、より厳しい specific なマスクが SG6 の勧告という扱いとなる。
- SG1 の方の勧告は少なくともこれだけは守れという最低限の基準になるということか。
- そのとおり。しかし、現状では両者の位置づけが曖昧になっているので、それをはっきりさせようというのが日本寄書の主な目的である。

### 5.7.2. 日本寄書 A3：30MHz 未満の周波数を用いる誘導システムと無線通信業務との離隔距離計算に関する WP1A へのリエゾン文書案

- この勧告は IH 調理器等を想定したものか。
- そのとおり。本来は業務ごとに規定されるべき保護基準として放送業務との干渉計算法が勧告に反映されていないことについて我が国から意見するもの。

### 5.7.3. 日本寄書 B1：デジタル音声機器への同期に関する新勧告草案 BS.[SYNC]への修正提案

- ここに記載されている同期というのは何と何の同期のことか。
- 映像と音声の同期のこと。

### 5.7.4. 日本寄書 B3：データ放送の拡張によるハイブリッド放送の紹介

- 日本ではデータ放送の拡張としてハイブリッド放送が行なわれているというところのデータ放送というのは、その後日本寄書 B4 で改訂を提案しているデータ放送と同じものか。
- そのとおり。

○ これは、関西（毎日放送と朝日放送）で検討しているものとは別のものなのか。

→（事務局）関西で検討しているものは放送波に直接 IP を載せて同期をとろうというアイデアであり、この提案内容とは別のもの。

#### 5.7.5. 日本寄書 B4: インタラクティブ TV の宣言型コンテンツフォーマットのハーモナイゼーションに関する勧告 BT.1699 の改訂提案

○（事務局）HbbTV 等諸外国のハイブリッド放送も、勧告 BT.1699 に改訂を入力してくるのか。

→ 欧米では BT.1699 で扱われているような規格とは全く違う規格を検討しているため、BT.1699 の枠組みには入らない。HbbTV についての外国寄書も予定されていると聞いているが、BT.1699 とは違う流れのようだ。

○（事務局）欧米が取り組んでいる放送・通信連携方式はデータ放送の拡張とは違う方法になる可能性もあるし、デファクトで進む可能性もあるということなのか。それとも基本的には ITU-R で議論が行われるものなのか。

→ ITU-R に提案がされるかどうかは分からないが、HbbTV は既に ETSI の規格となっている。ただし、ETSI の規格は非常に緩く、これだけ読んでも何か作れるわけではない。実際には HbbTV コンソーシアムで情報を得る必要がある。今回 HbbTV についての寄書が入ってくる際、どこまでその情報が書かれるかというのが気になっている。

○（事務局）連携の方式は日本と同じでデータ放送の拡張なのか。

→ HbbTV の放送通信連携のメカニズムはデータ放送の拡張ではなく、Open IP TV フォーラムで作られた規格をベースにしている。そういう意味ではゼロスクラッチで作っている。

○ 日本がこれからやろうとしている HTML5 に皆移行しようとしている感じなのか。

→ デプロイ可能なものを作ろうとすれば HTML5 をサポートすることになる。もう一つの流れとして、イタリアが MHP をベースとして Java を用いたサービスを既に行なっている。また、ITU-T SG9 ではアーキテクチャの勧告案が審議され、来年 1 月会合で承認される予定である。

○ それは HTML5 を使用するのか。

→ アーキテクチャの勧告なので言語は決まっていない。言語が特定されるのは次の段階となる。

#### 5.7.6. ラポータ寄書 RB1: 移動受信のためのマルチメディア放送に関する勧告及びレポートの構成の提案

○ ラポータとしては、マルチメディア放送の方式がたくさんあるので、勧告としてふさわしい形にまとめ直そうということか。

→ そのとおり。

#### 5.7.7. 日本寄書 C2: 番組制作用進歩的マルチチャンネル音響システムの空間音響配置に関する新勧告案の提案

○（事務局）マルチチャンネル音響の日本寄書 C2 では日本提案の 22.2ch の他に韓国 10.2ch なども含まれているが、これらもゆくゆくは UHDTV 規格の中に含まれると言うことか。

→ 日本として使いたいのは 22.2ch であり、UHDTV も 22.2ch を想定しているが、今回は勧告の早期作成のために 10.2ch も含めることとした。

○（事務局）韓国も 8K の放送を始めようとしているという情報があるが、韓国はその音響方式として

10.2ch を考えていると言うことか。

→ 韓国が 8K をどこまで検討しているのかは分からないが、今のところは 10.2ch を想定しているものと思われる。

○ （事務局）南カリフォルニア大学が 10.2ch を提案しているが、アメリカは 10.2ch で統一するのか。

→ 詳しいことはわからない。

#### 5.8. ITU-R SG6 関係ブロックへの対処方針について

資料 放-7-5「ITU-R SG6 関係ブロック会合への対処方針（案）」に基づき、事務局から説明。質疑等は特になし。

#### 5.9. 今後の検討スケジュールについて

資料 放-7-6「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、事務局から説明。質疑等は特になし。

#### 5.10. 閉会